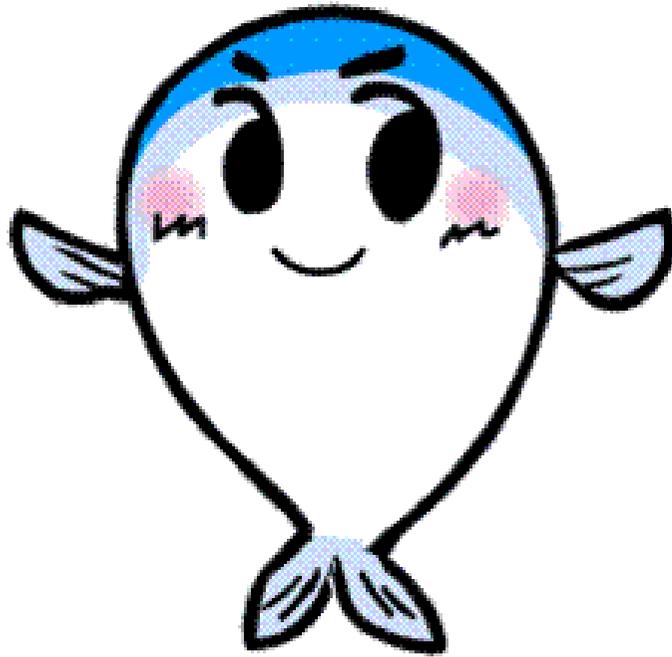


現状維持はありえない！ J F 東町の歩みと成長戦略！

——農林水産業・地域の活力創造本部——

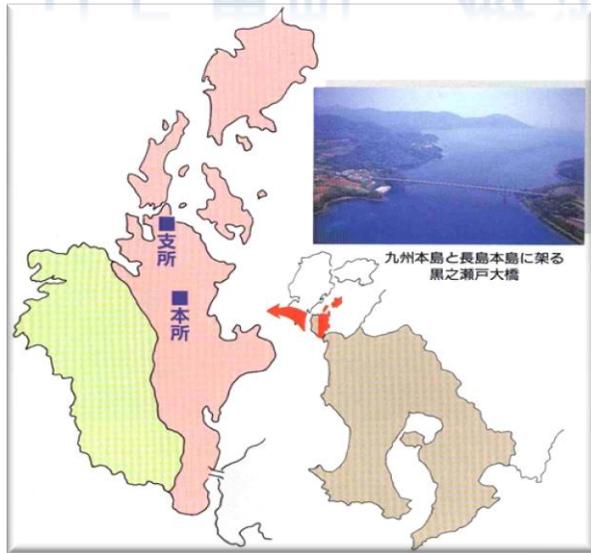


鯷王
Buri-Ou 

平成25年 9月12日(木)
東町漁業協同組合
参事 山下伸吾



J F 東町 概況



鹿児島県の最北端には、紺碧の海がひろがっています。

北緯32度11分6秒に位置する長島町を起点に、鹿児島県は南へ600キロメートルも続きます。県の最北端・長島町の海は限りなく青く、限りなく明るい光がふりそそいでいます。長島本島、伊唐島、諸浦島、獅子島ほか大小23の島々が点在し、豊かな自然と温暖な気候の中で、人々のうらおいのある暮らしが息づいています。



黒之瀬戸大橋
阿久根市と長島町を結ぶ
全長502メートルの三経間
連続トラス橋(S49完成)

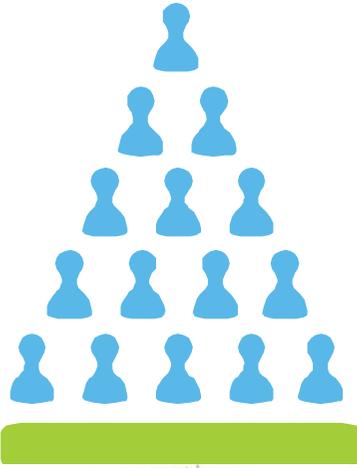


東は八代海に面し、西は長島海峡を挟んで天草と対峙しており、自然豊かな極めて恵まれた好条件を有した海域を活かした魚類養殖漁業は、当組合の水揚高の約80%を占めており、現在単一漁協としては、「日本一のブリ産地」であります。また、「鰯王」ブランドのもと国内は基より海外輸出も国内水産業の先陣として躍進し続けております。その他にも、青オサノリ養殖やタコ壺漁などの沿岸漁業も盛んであります。

平成25年 3月	正組合員数	年間水揚高
魚類養殖漁業	138名	80億円
漁船漁業	254名	19億円
合計	392名	99億円
※経済事業取扱高：244億円		
平成15年 3月	正組合員数	年間水揚高
魚類養殖漁業	161名	90億円
漁船漁業	327名	18億円
合計	488名	108億円
※経済事業取扱高：275億円		

共販体制の確立！

※組合員と組合が共に信頼出来る組織



☆約150名のブリ養殖業者(小規模)が、約2,000台の生簀を所有し、年間約200万尾のブリを出荷している。価格保持、ブランド確立には、組合で全て一元集荷し、出荷する体制を築く必要があった。

☆販路拡大

当初国内は、**東**のブランドで、全国に出荷していた。

昭和57年より、北米へ輸出を開始した。

昭和63年に水産加工場を建設し、フィレ真空パックでの販売を本格化させた。

☆加工事業の強化

平成10年には、養殖魚では国内初となる”HACCP認証”を受けた。



一元集荷・全量共販出荷体制を確立！

ところが？



出荷者によって身質・肉質に「バラツキ」がある！！

出来上がった魚の肉質を統一！
しかも高品質な魚にするには？



『鯨王』オリジナル飼料

☆高知大学との共同研究により、以下の基準を設定し、
JF 東町独自の飼料(固形)を造った。

原料の品質基準

種別	原料	項目	基準	種別	原料	項目	基準	
動物性原料	魚粉	粗蛋白質	67%以上	植物性原料	澱粉	水分	8%以下	
		粗脂肪	10%以下		末粉	水分	8%以下	
		粗灰分	20%以下		大豆油粕	水分	8%以下	
		水分	10%以下		米ぬか油かす	水分	8%以下	
		ヒスタミン	1,000ppm以下		コーングルテンミール	水分	8%以下	
		AV	20%以下	その他	魚油	水分	水分	0.5%以下
		TVN	120mg/100mg以下			AV	2%以下	
		Pov	10meq/kg以下			Pov	10meq/kg以下	

① 飼料安全法に準ずること

② 再生原料は使用しないこと

『鯨王ブランド』の確立



- 平成15年 EU輸出水産食品取扱い施設認定
- 平成16年 かがしまのさかな認定(第1号)
- 平成17年 「鯨王」を商標登録 (平成20年「鯛王」平成23年「早生鯨王」を商標登録)
- 平成17年 中国輸出水産食品取扱い施設登録
- 平成19年 ロシア輸出水産食品取扱い施設登録
- 平成20年 養殖ブリの加工尾数 100万尾突破

「鯨王」商標登録



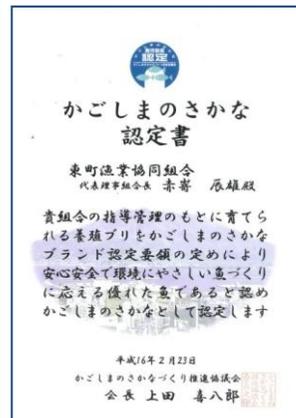
「早生鯨王」



「鯛王」



かがしまの
さかな認定書



対米HACCP認証



対EU輸出施設認証



海外輸出！

平成12年 752 t、 1, 123百万円
平成13年 1, 007 t、 924百万円
平成19年 1, 033 t、 1, 289百万円

昭和57年輸出開始以来、順調に推移してきた。



＝シャトネラ赤潮による被害＝

平成21年：ブリ類約120万尾、20億円



平成22年：ブリ類約150万尾、30億円



周年出荷が途絶えた

平成23年 405 t、 521百万円 (ピーク時の40%)



平成24年暮れからの円安傾向で”輸出量が回復”

平成24年	681 t、	780百万円
平成25年		343百万円(7月末実績)
		1,200百万円(末見込) ピーク時に近い!

赤潮被害対策施設整備事業

☆避難係留施設 6カ所(赤潮の心配がない外海にも1カ所設置)

☆15M角丸浮沈生簀 210基

☆8M角浮沈生簀 20基

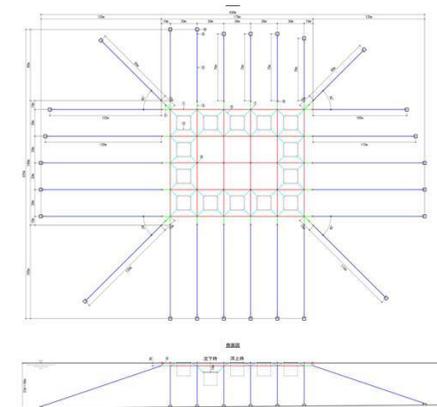
☆総工費：2,980百万円

うち国補助金：70.0%

県補助金：8.0%

町補助金：5.0%

自己負担：17.0%



15M角丸浮沈式生簀14基の係留施設



海中深く沈めることで、赤潮被害抑制に効果がある。

セグメント管理体制

足元では、**2年続きの赤潮被害**に加え、**長引く魚価安**で養殖業者は、**疲弊**してきた。

そこで、指導管理体制の強化を図り、養殖業者の経営維持安定と組合のリスク管理強化を目的に『**経営管理室**』を設置し、『**セグメント評価管理マニュアル**』を作成、導入しました。

財務分析評価

収 支 面
資 金 繰 り
財務・経営体力

事業オペレーション

仕 入 調 達
育 成 管 理
出 荷 販 売

経営評価(まとめ)

資 質
取 組 姿 勢
当面の事業推移見通し

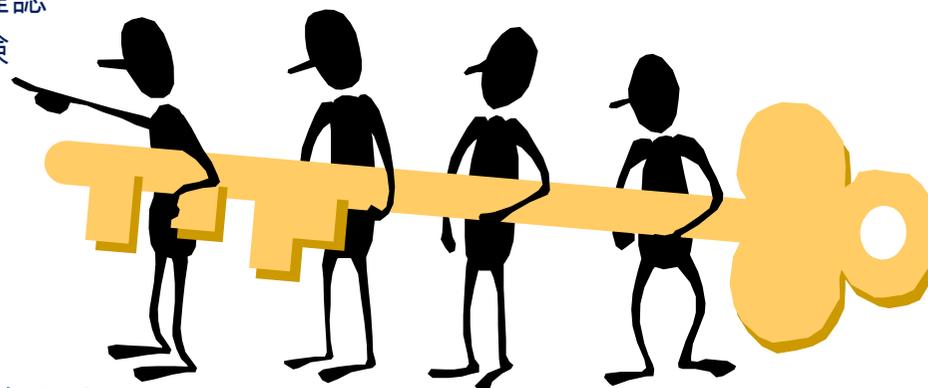
- (1) セグメント評価判定 (A⇒C-の5段階)
- (2) 対応方針(基本的・具体的)
- (3) 与信方針、管理対応、指導・要請事項の確認
- (4) 対応にあたってのリスク・留意事項の点検
- (5) 当面の対応

※養殖業者の経営維持及び不振業者の再建

不振業者は必ずしもその原因は同じでない！
業者毎に個別に評価判定し、経営指導を行う。
各事業部門連携し、組合全体での指導を行う。

※組合のリスク管理

足元を固めながら、事業推進力を高める必要がある！



これからの課題・取組！

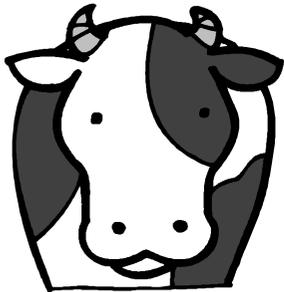
” 民間企業と対等に競争出来る組合組織”

☆食の安心・安全へのこだわり。

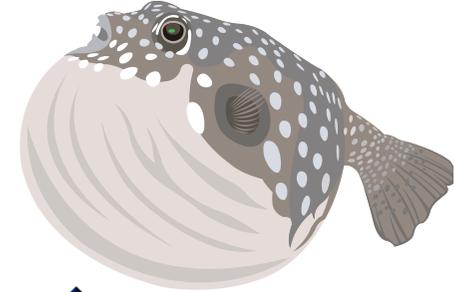
食の安心・安全への関心が高まる中、これに対応するために、組合独自の「ブリ養殖管理基準書」を作成し、平成12年に「トレーサビリティシステム」を独自で開発、導入した。

更に安全管理を強化する目的で、「品質管理室」を設置し、魚はもちろん給餌や出荷に使用する漁船、餌まで徹底した品質管理体制を敷いた。

水産業界では、かなり高い評価を頂いているが、業界の外までは、浸透しきれていない。



養殖(畜産) > 天然(野生)



養殖(安全) < 天然

◎牛・豚の畜産(養殖?)はあたりまえ!

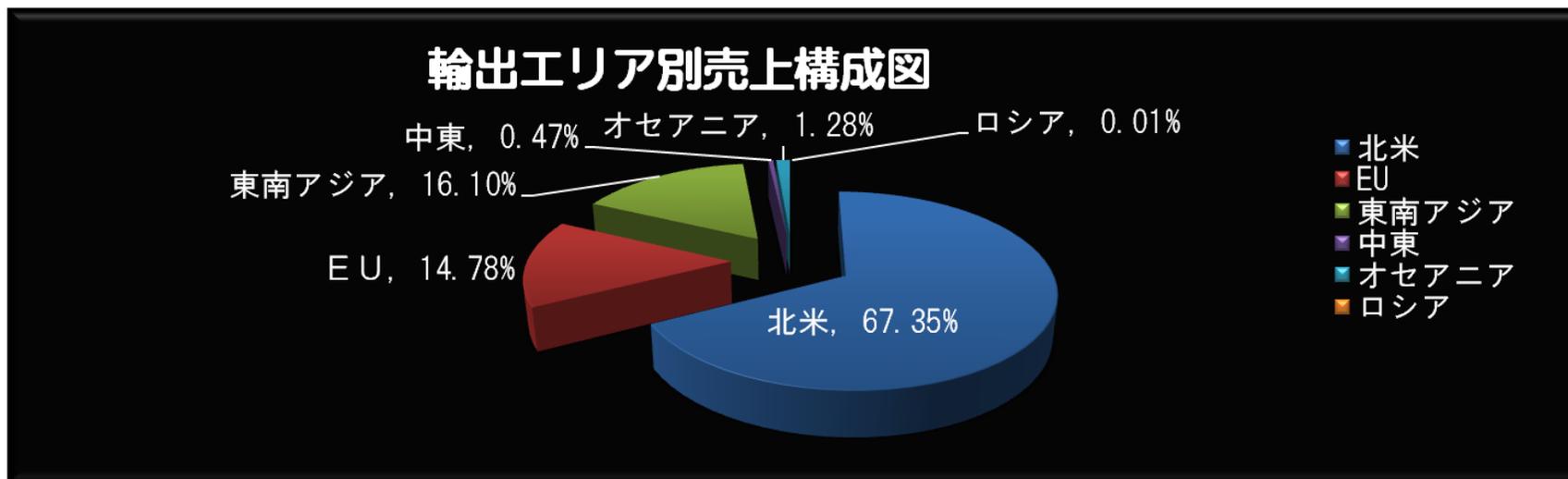
◎魚は、天然の考えが根強い!

◎『養殖魚の安全性の評価』が低い。

今後、『養殖魚は安全』をいかに訴えていくかが課題である。

☆輸出拡大

北米2カ国、EU10カ国、アジア中東8カ国、オーストラリアなど約20ヶ国に輸出している。現在増加傾向（昨年暮れから）にあり、輸出国・輸出量ともに、更に増やし、消費市場を拡大していく必要があります。

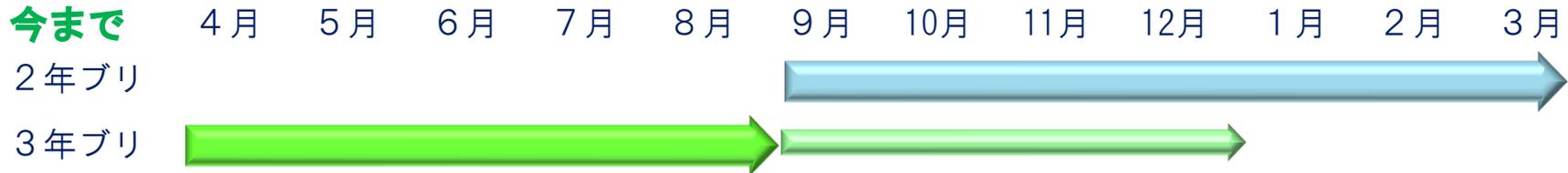


EU向け輸出が急増！

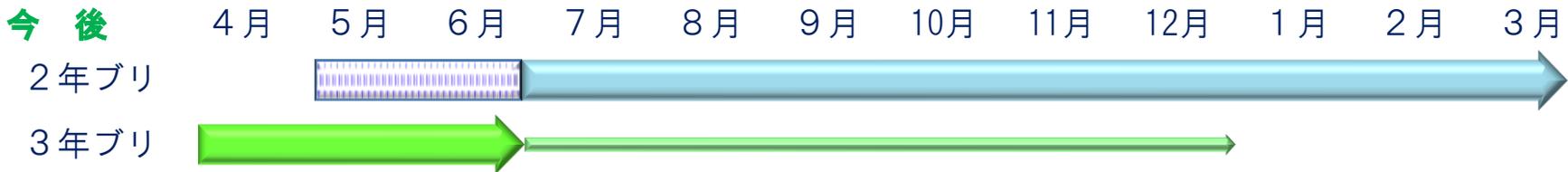
”長島から世界の食卓へ”

☆周年出荷の見直し (2年魚を主力とする周年出荷の確立!)

夏場の出荷は、3年魚が主流 ⇒ 赤潮被害のリスクが高い



※2年魚の出荷は、9月下旬からで、その間3年魚で対応していた。



※トビモジャ仔(大きな稚魚)の育成により7月からの出荷が可能となった。

早期採卵の「人工種苗」の導入により、7月より更に早い時期からの出荷に向けて、取組んでいる。(もうかる漁業創設支援事業)

◎メリット

- (1) コスト抑制 (育成期間が短く、給餌料が少なくて済む)
- (2) 赤潮被害のリスク軽減 (大きい魚ほど、赤潮で斃死しやすい)
- (3) 産卵後の肉質低下軽減
(3年魚は魚体も大きい、産卵後の肉質が落ちる)

※参考

平成12年度	2年ブリ: 132万尾
	3年ブリ: 88万尾
平成24年度	2年ブリ: 175万尾
	3年ブリ: 50万尾

トビモジャ仔による早期出荷⇒ 『早生鱒王』

” 完全養殖に向けて人工種苗を導入 ” ⇒ 『新皇鱒王』

☆総合加工場（6次産業化支援事業）

① 建設に至った経緯

- ◇魚の消費傾向が変化している
 - ◇家庭で下ごしらえをしない
 - ◇1人世帯の増加
 - ◇刺身商材だけでは売れない
- 以上のようなことから、環境変化に対応していくには、今後「高次元」の加工場を持ち、対処しなければ生き残っていけない。

② 『直接家庭へ届けられる商材』

現在、民間企業と業務連携しながら商品開発を進めている。

今後は、流通手段も変えていき、直接加工工場から、スーパー・コンビニや家庭に届けられる流通手段を開拓していきたい。

*** キーワード：ファストフード ***



平成25年10月完成予定の総合加工場完成予想図



照り焼き



あらか煮



ブリのねぎとろ



ブリのメンチカツ



ブリカツ

行政支援が必要です。

” 安心・安全な魚『ジャパブランド』の確立”

海外人口は、増加傾向にあり、将来的に食料不足になると言われている。また、健康食ブームで、魚の需要が高まってきている。そこで、安心・安全な日本の魚として国の施策で推進して頂き、消費市場を開拓して頂ければ、JF組合・企業も輸出に取組易くなる。

” 6次化ファンドの活用”

6次産業化の支援 ⇒ 総合加工場が今年10月に完成予定であります。多様化する消費者ニーズに即応して行くには、加工場を分社化し、フットワークを軽くし、営業・販売体制の強化を図る必要がある。

” 所得補償の充実”

現在、漁業収入安定対策・漁業経営セーフティネット構築事業により、所得補償の制度を活用させて頂いております。しかし、赤字解消までには、至っていないのが現状であります。今後、更に制度の内容を充実させて頂きたい。

「組合員が安心して漁業が出来る事業実施体制」を構築！

水産業界は、後継者不足が深刻な問題 ⇒ 生産基盤の弱体化

当組合の養殖業者にあっては、若い後継者が多い。(青壮年部員 108名) ⇒ 将来の展望が明るい

しかし、魚価安・コスト高騰(餌飼料・燃油等) ⇒ 採算がとれず赤字経営が続く

打開するには、国策による支援が必須であり、組合だけの自助努力では、厳しいのが現実であります。